総合がん医療推進研究について

臨床腫瘍学講座 教授　醍醐 弥太郎

総合がん医療推進研究は、滋賀医科大学の５つの重点研究プロジェクトの一つとして、がん先進医療や個別化（オーダーメイド）医療開発を中心に研究活動が推進され、長期的に本学のがん研究の中心テーマとなることが期待されている。2008年の滋賀県がん診療高度中核拠点病院指定、2009年滋賀県寄附講座・総合がん治療学講座の設置、2012年大学院医学系研究科・総合がん治療学分野の設置等の附属病院および大学内の体制整備と並行して研究実績が積み重ねられてきた。現在は、医学部臨床腫瘍学講座をコーディネーターとして、がん研究に関わる基礎医学、臨床医学系講座の担当教員が本プロジェクトに参加し、連携をとりながら個性的ながん研究を推進している。これまでの主な研究活動は以下のとおりである。

１．バイオマーカー探索研究

ゲノム・プロテオーム解析技術を多数の臨床試料の解析に応用することにより、難治性がんの発生・悪性化の機構を分子病態の面から解明してがんの新規分子標的薬やがん免疫療法およびがんの予防と早期診断法の開発、ならびに、がんの分子病態診断に基づいて発がんリスクを予測する、もしくは薬物療法開始前にその効果を予測し、最適な治療を選択するオーダーメイド医療の開発研究に取り組んでいる。これまでに肺がん、乳がん、頭頸部がん、大腸がん、乳がん等の診断バイオマーカーが同定され、その成果が国際学術雑誌や新聞等に掲載され高い評価を得ている。

２．創薬シーズ探索研究と個別化（オーダーメイド）医療開発研究

文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」の臨床診断研究支援活動・班長施設として、独自に構築したヒト遺伝子の90%以上を網羅するcDNAマイクロアレイと正確な臨床情報を備えた５大がん等約5,000症例の組織マイクロアレイシステム、ハイスループット血清ELISA等の解析技術を独自に構築してがん組織と血清試料の体系的解析を行い、それらに基づき（１）低分子化合物、核酸薬、モノクローナル抗体、がんペプチドワクチンの開発に有用な新規分子標的候補の同定と機能解析、（２）抗がん剤感受性予測法の確立、（３）がんのリスク診断、早期診断、分子病期診断に有用なバイオマーカーを複数同定して、生命予後の延長に寄与しうる統合的ながん病態診断システムの構築を行い、研究成果がNature Genetics誌２報、Nature Communications誌２報を含む多数のインパクトのある国際学術雑誌や新聞等に掲載され高い評価を得ている。

３．先進医療開発研究

がんの先進医療開発において、がんペプチドワクチン療法の臨床開発研究の臨床試験を滋賀医科大学附属病院で実施しており、厚生労働科学研究費補助金「難病・がん等の疾患分野の医療の実現化研究事業」の代表研究者、医師主導治験調整施設として、総合がん医療推進研究担当教員を複数含む肺がんペプチドワクチン治験の統括・実施体制を構築して、滋賀医大が初めて治験中心施設となる治験届が医薬品･医療機器総合機構（PMDA）で受理され試験実施中である。本研究では、臨床･基礎医学研究、トランスレーショナルリサーチから創薬開発研究と医師主導治験をはじめとする臨床試験まで一貫して進められており、実務を通した本学内における先進医療開発に関わる医療人の育成にも貢献している。

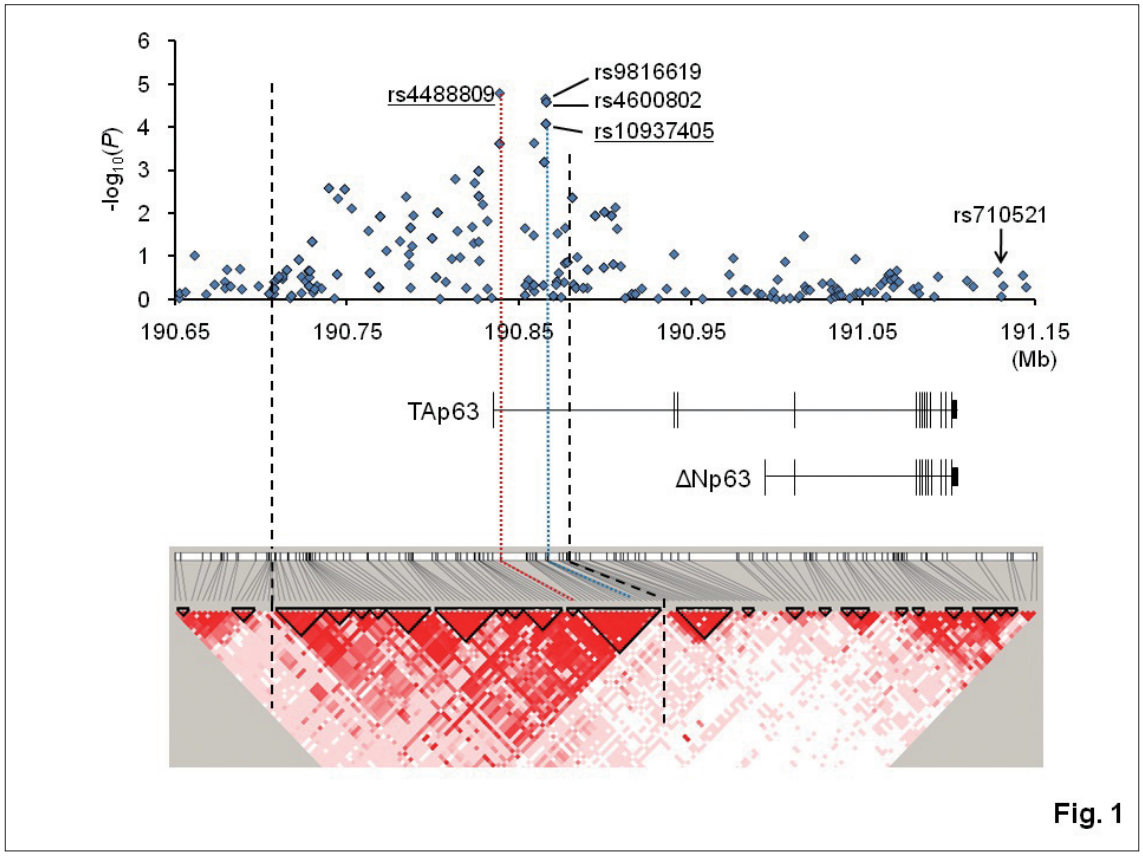
４．国際交流

SUMSプロジェクト等より積極的に留学生を受け入れ、大学院に入学させている。また、国際共同研究を積極的に推進し、国際学会にも毎年演題発表を行っている。

５．学内連携の強化

第８回基礎・臨床融合の学内共同研究発表会（2012年７月17日）の開催に取り組み、学内で初めてのがん研究に特化した基礎医学講座と臨床医

学講座が融合した共同研究プロジェクトを引き続
き連携を深めながら推進している。



TP63遺伝子上の肺癌関連SNPsの同定

アジア疫学研究センター

アジア疫学研究センター　センター長　三浦　克之

我が国唯一の疫学研究拠点

疫学研究では大規模な集団に対する長期間の調査が必要となるため、欧米では膨大な時間と人員、研究費が投入されてきました。これら欧米諸国と比較すると、日本やアジアでの疫学研究は遅れを取っており、研究基盤を強固なものとするため、個人情報や生体試料管理のための専門施設の設置、研究調査に用いるリサーチクリニックの整備、および専門スタッフの育成などが課題となっていました。これらの課題に対応すべく、滋賀医科大学アジア疫学研究センター（Center for Epidemiologic Research in Asia: CERA）は、平成24年度文部科学省施設整備予算（最先端研究施設）により、我が国初の総合研究棟「疫学研究拠点」として整備されました（センター長：社会医学講座公衆衛生学部門教授三浦克之）。

アジア疫学研究センター内には、マイナス80度で生体試料を保存する保管室、データ解析室、地域住民の協力を得て問診や検査などを行うためのリサーチクリニック、食事と疾病との関連を調べる摂食試験用食堂などを備えています。また、膨大な個人情報を扱うため、侵入者や情報漏洩を防ぐ厳しいセキュリティー対策が導入されており、「滋賀脳卒中データセンター」の事務局も併設されています。

生活習慣病予防に資する研究成果の創出、人材育成を目標に掲げて

心臓病・脳卒中などの循環器疾患、およびその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症などの生活習慣病の増加は、我が国のみならずアジア諸国においても深刻な健康問題になっています。しかしながら、これらアジア諸国では、循環器疾患や糖尿病の有病率・罹患率、その原因となる生活習慣や遺伝的要因等について十分に解明されていません。これまで我が国で培われた疫学研究の経験と技術がアジア諸国での疾病予防や健康寿命の延伸のために必要とされており、アジアのリーダーとして我が国の果たすべき役割はますます大きくなっています。以上の背景を踏まえ、アジア疫学研究センターは、アジアにおける疫学研究の拠点として、循環器疾患や糖尿病を中心とした各種疾患に関する最先端の疫学研究、国際共同疫学研究の推進を図り、アジアを中心とする国際共同疫学研究と、滋賀を基盤とする最先端地域疫学研究という二つの研究分野と、生活習慣病疫学の専門家育成のための大学院・社会人教育の推進を目標としています。

平成25年10月１日に開所記念式典を挙行し、翌10月２日にはピアザ淡海・滋賀県立県民交流センター（滋賀県大津市）において「開所記念国際シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムではその開所を記念し、Imperial College LondonのPaul Elliott教授の他、アジアの提携校から当該分野の研究者を招待し、「アジアのための国際共同疫学研究の展開」をテーマとしました。当日は100名以上の参加者が集まり、Paul Elliott教授、Robert D. Abbottアジア疫学研究センター特任教授の基調講演に聞き入るとともに、国際シンポジウムでは、活発な討論、意見交換が行われ、盛会裏に終了しました。今後の国際共同疫学研究推進が期待されるところです。

博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」：アジアのトップリーダーとして活躍するNCD対策の専門家養成を目指して

さて、本センター開所と時を同じくして、滋賀医科大学では、「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」（プログラムコーディネーター：三浦克之）と題して、アジアのトップリーダーとして活躍するNCD対策の専門家の育成を目的とした、文部科学省・博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）が採択されました。

本プログラムでは、日本およびアジア諸国から医療従事者、行政官、健康･医療関連企業のスタッフなど博士課程で学ぶ人材を集め、滋賀医科大学における充実した生活習慣病疫学研究の基盤を最大限に活用した教育を通じ、NCDに関する医学的知識、疫学方法論をはじめとした高度な科学技術、アジアの公衆衛生改善に対する構想力を兼ね

備えた、産学官を横断する人的ネットワークをもつ、バランスのとれたリーダーを養成することを目的としています。これにより、国内外の産学官の広い分野においてアジア太平洋州のトップリーダーとして活躍するNCD対策の専門家を育成します。

本プログラムの特徴としては、教育・研究指導の国際化を図り論理的議論を英語でできるグローバルリーダーの養成、本学が有する多彩なグローバルネットワークを活用した欧米・アジア等の提携校・研究機関・行政機関・健康関連企業における「武者修行」、単科医科大学のもつ機動性を生かした学内の教育資源・研究資源を重点的に投入した全学的な教育体制、奨励金制度など経済面も含め修学に集中できる環境などが挙げられます。

アジア疫学研究センターは、日本で唯一の疫学研究拠点として、生活習慣病予防に資する疫学的エビデンスの創出、およびトップリーダーとしてグローバルに活躍できる専門家育成に取り組み、21世紀の健康問題の核心的課題であるNCDの解決と、健康寿命の延伸に寄与していきます。

アジア疫学研究センター

「里親」学生支援事業

里親学生支援室長　坪田　和史

1.「里親」学生支援事業のはじまり

入学時には「滋賀県で将来活動しても良い」「滋賀県に関心がある」と考えている学生が約４割いる。しかし、学年が上がるに従って「漠然とした将来への不安」や「地方都市に対する根拠のない否定的なイメージ」によって、「初心」が揺らいで行く。学生の「初心」を育み、根拠のない不安を打ち消すためには、実際に地域で活躍しておられる医師や看護師の方々と交流して滋賀での働きがいを学ぶことが有効なのではないか。また、県下各地の豊かな自然や文化に触れ地域の魅力を知ることが、医師・看護師としての将来の進路選択時の有効な情報になるはずとの考えに基づき、文部科学省の平成19年の学生支援GPに応募した。これが現在の「里親」学生支援事業の始まりである。

2.「里親」学生支援事業の骨格

本事業の中心企画は、入学時に「将来、滋賀県で活動するかもしれない」と思っている学生を対象に、地域で医師や看護師として活躍しておられる方々が「里親」となり、また、住民や患者の方々が「プチ里親」となって、学生と交流することである。また、学生が地域を訪問し、地域の医療の現状を知ったり、住民の方々と交流したり、自然や文化に触れる事で地域理解を深める事も企画の柱となっている。こうした企画は、全国的に見て、人口あたりの医療機関数や医師、看護師数が乏しい滋賀県の現状に対して、県内唯一の医育機関の役割や責任について学内的な議論を重ねる中で立案された。

3.「里親」学生支援事業の活動と成果

2007年の10月から2011年の３月までは、文部科学省から支援を受けた学生支援GP『地域「里親」による医学生支援プログラム』として、2011年４月からは本学の独自事業として取り組んでいる。2008年の４月時点では、「里親」による支援を受けたいと申し出た学生は１年生160人の中で18人だったが、2014年４月には２年から６年まで（本稿執筆時点では、新入生は未登録のため）70人を超える登録数となっている。また、里親の登録数も70人を超え、プチ里親も20人近い。クラブの先輩でもある里親の先生と一緒にテニスをして楽しかった事を学生が報告してくれたり、学生と交流していると自分も学生時代の新鮮な気持ちに立ち返れると、里親の先生からも評価を得ている。2008年の夏の湖北・長浜地域をかわきりに、夏冬の年２回実施してきた地域理解のための宿泊研修は、６年間で延べ12回となり、県下医療圏を二巡した。県内でも豪雪地域を診療圏にもつ湖北地域の病院を訪問した第一回目の研修では、公民館で実施されている僻地診療に同行させていただき、診療の終わった患者の方々と学生が交流し、僻地の巡回診療の大切さや医師と患者の絆の深さを学生たちは学んだ。教職員も、この宿泊研修を通じて、学内の教育では提供できない確かな学びがあることに確信を持つことができた。また、東近江地域の宿泊研修で、医師・看護師不足のために閉鎖されている病棟を見学した際には、学生たちは言葉を失っていたが、研修後には「滋賀の医療の現状がわかった。そして、危機的状況を回避する力を持っているのが、僕たちであるということもはっきりとわかった。」と、自覚ある感想文が提出された。里親やプチ里親との交流や、地域の魅力や厳しい現実を知る宿泊研修を柱とする本事業は、新聞やラジオ・テレビでもたびたび紹介されている。また、本事業では広く県民に対して、ホームページや１万部を超える広報誌を通じて情報を発信している（写真参考）。2014年３月には、本事業の支援を受けた医学科学生が初めて卒業したが、県内研修機関の選択率は有意に高かった。

4. NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」の誕生

文部科学省から支援を受けた学生支援GP『地域「里親」による医学生支援プログラム』が2011年の３月に終了することを前提に、本学は2010年９月に「滋賀の医療と医師・看護師養成を考える」シンポジウムを開催した。シンポジウムでは『地域「里親」による医学生支援プログラム』の成果を踏まえて、大学だけでなく、滋賀県全体が持っ

ている社会的、人的、財政的資源を活用して医療人の育成･支援を行なう組織の必要性を提起した。この提起は、シンポジウムに参加した滋賀県、県医師会、県看護師協会、県病院協会など幅広い県民･組織の賛同を得て､2011年３月にNPO法人「滋賀医療人育成協力機構」が設立された。NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」は、「滋賀県民の生活や文化・自然を理解し『滋賀県が好き』な医療人を、県民や県下の関係機関が協力して育成支援すること」を目的としており、現在、「里親」学生支援事業の力強いパートナーとして活動を展開している。

5. おわりに

ここまで、「里親」学生支援事業の歴史と活動の概要を記してきた。滋賀県の医療の担い手を育成することは本学の使命ではあるが、本学だけで成し得ることではない。地域の人たちやNPO法人「滋賀医療人育成協力機構」とともに、６年先、10年先を見据えた「里親」学生支援事業に努めたい。

滋賀医大『里親GP』学生支援ニュース
めでる　医学生・看護学生と地域住民をむすぶコミュニケーションマガジン

地域医療再生モデル事業

総合外科学講座　教授　来見　良誠

人口の地域偏在や高齢化による疾病構造の変化、新臨床研修システムの導入による医師の偏在、診療科の細分化による機能的医師不足、医療機関の地域偏在など、いくつかの要因が複雑に絡み合って引き起こされる地域医療の衰退に対する地域医療再生は容易ではありません。このような難問に積極的に取り組み、効果を上げている東近江における“地域医療再生モデル事業”について、ご紹介いたします。

地域医療再生計画

東近江地域における医療問題を関係機関別に解析すると、①国・県は地域医療の再生、②東近江市は地域医療の再生と同時に、市町合併で保有することになった公的3病院（能登川病院・蒲生病院・国立滋賀病院）の経営安定化、③国立病院機構では医師の引き上げにより斜陽化した滋賀病院の再建、④大学では地域医療教育施設の充実のための第二教育病院の確保、など様々なニーズがあり、これらを地域医療再生モデル事業の中に組み込む方策が考案されました。公的資金を投入し、公的3病院の集約化と再編および320床の中核病院を中心に地域完結型医療システムの構築を推進し、大学では医師の派遣と学生・研修医の教育機関としての充実をめざし、滋賀県地域医療再生計画がスタートいたしました。

地域医療再生モデル事業

平成22年1月に策定された「滋賀県地域医療再生計画」に基づき、東近江市の国公立3病院（国立病院機構滋賀病院、東近江市立能登川病院、東近江市立蒲生病院）の集約化、再編が行われ、国立滋賀病院はH23年には180床、H24年には220床、H25年には320床に増床し、地上7階建ての新病棟の完成とともに地域の中核病院となり「国立病院機構東近江総合医療センター」と名称変更いたしました。同時に、平成22年6月に締結した「寄附講座の設置に関する協定書」に基づき、滋賀県、独立行政法人国立病院機構及び東近江市の要請を受け、滋賀県の寄附により滋賀医科大学内に総合内科学講座と総合外科学講座が設置されました。寄附講座の拠点を国立病院機構 東近江総合医療センターに設け、医師を派遣するという取り組みは全国的にもめずらしい画期的な試みで、“地域医療再生モデル事業”として現在進行しています。

中核病院としての東近江総合医療センターは、急性期医療を中心に提供し、東近江市で不足している救急の分野を充実させるとともに、小児科、産婦人科、整形外科などをはじめ幅広い疾患に対応が可能な体制となりました。能登川病院および蒲生病院（現・蒲生医療センター）は、急性期医療機関を後方支援・前方支援する医療機関として整備し、病院再編成を契機としてそれぞれの医療機関の長所を最大限に生かした医療連携体制を構築中であります。

寄附講座の開設

平成23年1月、総合内科学講座（初代教授：辻川知之）・総合外科学講座（初代教授：来見良誠）が開講いたしました。平成23年4月には在籍出向の形をとり、国立病院機構滋賀病院での診療を開始いたしました。平成23年4月には総合内科学講座に准教授3名（杉本俊郎／大西正人／五月女隆男）・助教3名（前野恭宏／松山千穂／仲川宏昭）、総合外科学講座に講師1名（菊地克久）・助教1名（佐藤浩一郎）が就任し、体制を整備してきました。両講座とも、滋賀医科大学との強固な協力体制のもと、組織的な地域医療の再生及び確立のため、国立病院機構東近江総合医療センターを滋賀医科大学の「第二教育病院」として教育研究の活動拠点とし、臨床研修医の臨床能力向上を図るとともに、総合診療の研修指導や地域医療を担う医師の養成と確保に努めています。平成25年4月からは、総合内科学講座（教授1名・准教授3名・講師1名・助教1名・客員准教授1名・非常勤講師7名・客員助手2名：計16名）、総合外科学講座（教授1名・講師2名・助教1名・臨床教授1名・客員准教授1名・非常勤講師10名・客員助手4名：計20名）の大きな講座となりました。そして、滋賀県からの寄附が終了した平成26年4月以降は、両講座は滋賀医科大学の講座となっています。

滋賀医科大学の役割

近年、臓器別・機能別に診療科が専門分化されていることは珍しくはありません。確かに、このような診療は、専門性の追求においては有意義ですが、地域医療の現場で求められる全人的医療を行う医師を養成する教育現場においては、十分とは言えません。総合的な知識と技術を兼ね備えた医師を育成し、内科系・外科系領域の診療の更なる充実を図るため、総合内科学講座・総合外科学講座が設立されました。臨床教育・診療の拠点を国立病院機構東近江総合医療センターに構え、併存疾患や背景の異なる個々の患者を全人的に診療し、最善の医療を提供するため、高い専門性のみならず、各科の垣根を越えた機能的なチーム医療を実践できるようスタッフ一同、日夜研鑽しております。

滋賀医科大学の役割 としては、①東近江地域の医療を支えるため、安定的に多数の医師を派遣し、良質な診療を行うとともに、24時間体制で時間外・救急診療への対応を行い、さらに通信回線を使った遠隔での病理診断や画像診断をおこなっています。②東近江総合医療センターを本学の「第二教育病院」と位置づけ、医学部学生の臨床教育、初期研修医の指導、卒後医師の実施研修等を行い、医師の総合診療能力の向上に努めています。③テレビ会議システムの導入で、滋賀医大と双方向の通信を行い、リアルタイムにカンファレンスを行っています。④教育・研修体制のさらなる充実に向け、本学では東近江総合医療センターの全医師に非常勤講師または客員助手の称号を付与しています。

地域医療再生モデル事業の一環として東近江保健医療圏において、①地域医師会との連携、②救急医療の充実、③地域住民への健康に対する自己管理の啓発、④病診連携パスの運営、⑤災害医療への取り組み、⑥産科診療の充実、⑦小児診療の充実などに取り組んでまいりました。具体的には、①産科診療の再開、②臨床談話会開催(2回／年)、③市民公開講座開催（2回／年)、④大規模災害訓練、⑤がん診療研修会開催（1回／年)、⑥糖尿病教室開催、⑦滋賀医大との合同CPC、⑧滋賀医大とのテレビ会議開催（3回）などをおこなってまいりました。平成26年度からは、スキルスラボの整備により大学とほぼ同程度の設備を導入し技術の向上を図っています。

地域の中核病院として地域医療の充実を目指すとともに、滋賀医科大学の第二教育病院として総合診療のできる医師を育成し、国立病院機構としての政策医療を推進できる医療機関となる事によって、地域医療再生モデル事業を達成したいと思っています。

国際交流　十年間の実績

国際交流支援室長　相浦　玲子

国際交流事業は、残念ながら財源を生み出すことがないどころか、かなりの資金を必要とする事業である。短期的にみると道楽にさえ思えるかもしれない。しかし、いにしえのギリシャ人が言ったように、シンポジウムとは「ともに飲（食）すること」であり、それによって、単なる議論よりも遥かに多くのものを引き出すことができる。

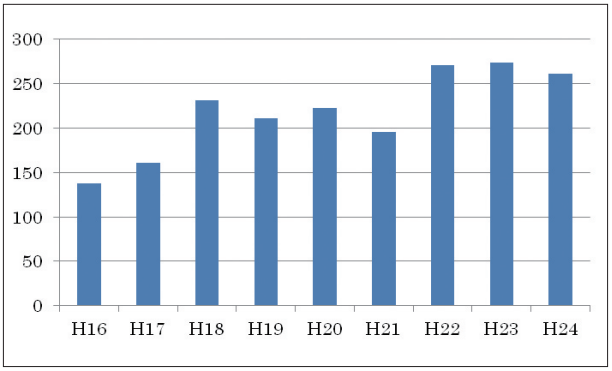
開学30周年記念式典は、多くの内外の参加者を得て盛大に開催された。その後の十年間はさらに海外への拠点を拡げた十年と言えよう。協定校の中には、交流が途絶えがちになっているところも出始めているが、両機関のトップが双方向で訪問をして、幾つかの部署にわたって交流を進めているところは、交流がますます盛んになる傾向にある。哈爾濱医科大学や北華大学とは長年の友好関係を維持し、双方向の交流があり、常に多くの大学院生が本学に在籍している。

また、例えば、ベトナムのチョー・ライ病院とは、放射線部が開設以来、草の根の交流を続けており、交流は外科学、内科学、病理学、看護部・看護学科などに拡がり、今日では学部学生や大学院生の交流に及んでいる。2012～2013年度の間に本学において、3名の博士課程修了者及び1名の修士課程修了者を輩出している。

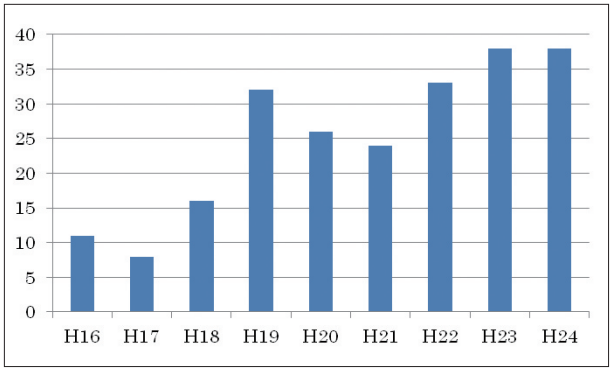
カナダのオタワ大学と協定を締結（2010年2月）し、海外自主研修先として学部学生の受け入れを依頼するとともに、本学では、オタワ大学からの大学院生を受け入れ、現在、1名が在籍している。また、マレーシア国民大学との交流を2011年に開始しており、歴史の浅いなかで、分子神経科学研究センターを中心に共同研究や大学院生の受け入れを盛んに行っている。また、2013年からは本学学生の海外自主研修先として現地を訪問するようにもなった。さらにこの十年の間には、初めてアフリカとの協定にこぎつけており、ナイロビ大学、ケニア中央医学研究所の両機関と協定を締結した（2012年11月）。海外自主研修先として希望者が多いこともあり、政情が安定して交流を再開することが強く待たれている。

これからさらなる交流が期待される大学には、既に協定を締結したモンゴル国立医科大学（2013年6月）とインドネシア大学（2014年2月）があり、前者からは、国を代表する病院の院長クラス10名の研修が本学に委託され、既に実施している。後者は、既に脳神経外科との密な交流がなされていてさらなる発展が予見されている。

この十年間で協定校が飛躍的に増えているが、今後は、これらの協定校との関係を丁寧に深めて行くことが重要であろう。



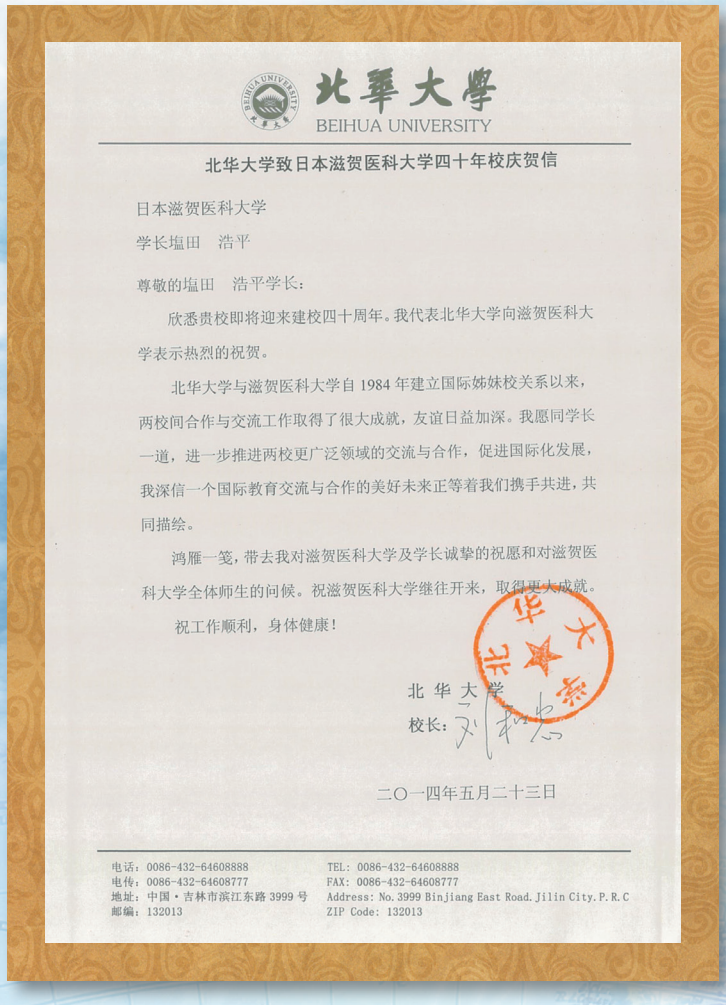
［教職員の海外渡航者数（単位：名）］



［学生海外派遣状況（単位：名）］

締結大学等　名称	国名	締結年月日
北華大学（旧　吉林医学院） Beihua University	中国	2001．3．6 （1984.11.24）
長春市中心医院 Changchun Municipal Hospital	中国	1984.11.24
ブリティッシュコロンビア大学 The University of British Columbia	カナダ	1990．7.26
ミシガン大学 University of Michigan	アメリカ	1990.11.29
中国医科大学 China Medical University	中国	1993．9.28
ローマ大学 Rome University "La Sapienza"	イタリア	1994.10.28
ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学 The University of Picardie Jules Verne	フランス	1995．5.16
哈爾濱医科大学 Harbin Medical University	中国	2001.11.21
アミアン・ピカルディー大学病院 University Hospital of Amiens-Picardie	フランス	2004.10．4
チョー・ライ病院 Cho Ray Hospital	ベトナム	2006.12.25
ホーチミン医科薬科大学 University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Minh City	ベトナム	2008．6.23
東北大学 Northeastern University	中国	2009．5．1
オタワ大学 University of Ottawa	カナダ	2010．2.16
マレーシア国民大学 National University of Malaysia	マレーシア	2011.11.10
ジョージア大学 University of Georgia	アメリカ	2012.10．3
ナイロビ大学 University of Nairobi	ケニア	2012.11．7
ケニア中央医学研究所 Kenya Medical Research Institute	ケニア	2012.11．7
モンゴル国立医科大学（旧　モンゴル健康科学大学） Mongolian National University of Medical Sciences	モンゴル	2013．7．1
インドネシア大学 University of Indonesia	インドネシア	2014．2.13

北華大学



北華大學
BEIHUA UNIVERSITY

北华大学致日本滋贺医科大学四十年校庆贺信

日本滋贺医科大学
学长塩田　浩平

尊敬的塩田　浩平学长：

欣悉贵校即将迎来建校四十周年。我代表北华大学向滋贺医科大学表示热烈的祝贺。

北华大学与滋贺医科大学自 1984 年建立国际姊妹校关系以来，两校间合作与交流工作取得了很大成就，友谊日益加深。我愿同学长一道，进一步推进两校更广泛领域的交流与合作，促进国际化发展，我深信一个国际教育交流与合作的美好未来正等着我们携手共进，共同描绘。

鸿雁一笺，带去我对滋贺医科大学及学长诚挚的祝愿和对滋贺医科大学全体师生的问候。祝滋贺医科大学继往开来，取得更大成就。

祝工作顺利，身体健康！

北 华 大 学
校长：刘和忠

二〇一四年五月二十三日

电话：0086-432-64608888
电传：0086-432-64608777
地址：中国・吉林市滨江东路 3999 号
邮编：132013

TEL：0086-432-64608888
FAX：0086-432-64608777
Address：No.3999 Binjiang East Road. Jilin City. P. R. C
ZIP Code：132013

北華大学（中国）

北華大学より滋賀医科大学開学40周年のお祝いを申し上げます。

尊敬する塩田浩平学長先生

貴学が間もなく開学40周年を迎えられますことを拝聴し、大変喜ばしく思います。北華大学を代表しまして私から貴学に対し心よりお祝い申し上げます。

北華大学と滋賀医科大学は、1984年に国際交流協定を締結して以来、両校間の協力事業および交流事業において大きな成果を収めており、友好関係は日に日に深められております。私は貴殿とともに、より広範な交流事業および協力事業を更に推進し、国際化の発展に寄与していきたいと願っております。我々がともに協力することで、国際教育交流事業および協力事業の素晴らしい未来を思い描くことができると私は深く信じております。

この手紙に託し、私は滋賀医科大学学長先生へ心よりお祝い申し上げるとともに、職員と学生の皆様へご挨拶申し上げます。滋賀医科大学が“前人の業を継ぎ、前途を開拓”され、さらに大きな成果をあげられることをお祈り申し上げます。

それでは御機嫌よう、くれぐれもお体をご自愛ください。

北華大学
学長　劉　和忠
2014年５月23日

長春市中心医院

長春市中心医院（中国）

『積賢為道』は、中国の漢（紀元前206年～紀元後220年。劉邦の建てた国）の董仲舒という哲学者が書いた文章に出てくる言葉です。その意味は、『国王が有能な士を蓄えることは、国を治める上での正しい道である』ということです。本医院の陳明強院長が『積賢為道』という言葉を選んだのは、『滋賀医科大学が有能な人材を集め、人類の健康に貢献することを心から願います』という趣旨からです。

The University of British Columbia

a place of mind
THE UNIVERSITY OF BRITISH COLUMBIA

OFFICE OF THE PRESIDENT

7th Floor, Walter C. Koerner Library
1958 Main Mall
Vancouver, BC Canada V6T 1Z2

Phone 604 822 8300
Fax 604 822 5055

Professor Stephen J. Toope
President and Vice-Chancellor

3 June 2014

Professor Kohei Shiota
President
Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinowa-cho,
Otsu, Shiga
520-2191

Dear President Shiota:

It gives me great pleasure to send you my warmest congratulations on the 40th Anniversary of The Shiga University of Medical Science.

The strategic alliance between The University of British Columbia and Shiga University of Medical Science is a key element in our continued commitment to internationalization.

My very best wishes on this momentous occasion.

Yours sincerely,

Stephen J. Toope
President and Vice-Chancellor

SJT/tt

ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）

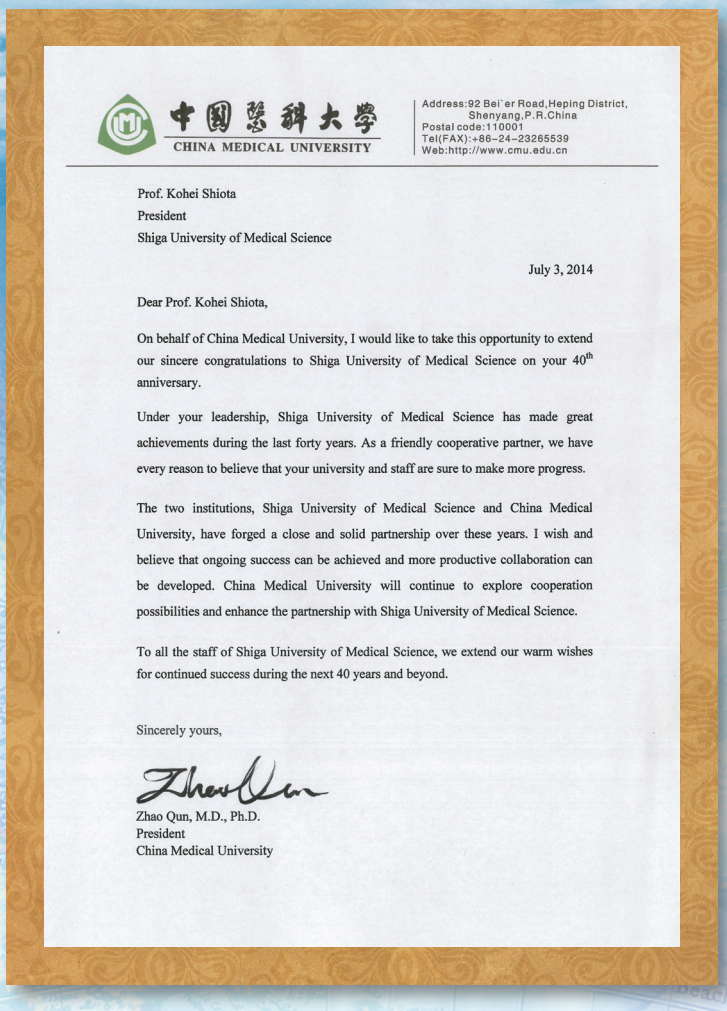
2014年６月３日

滋賀医科大学・学長
塩田浩平殿

滋賀医科大学が創立40周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。
貴学との協力関係は、本学の国際化への取り組みにおいて誠に重要かつ中心的な価値をもっております。
貴学のますますのご発展を祈念しまして祝辞の言葉といたします。

スティーブン・J・トゥープ
学長・副総長

中国医科大学



中国医科大学
CHINA MEDICAL UNIVERSITY

Address:92 Bei`er Road,Heping District, Shenyang,P.R.China
Postal code:110001
Tel(FAX):+86-24-23265539
Web:http://www.cmu.edu.cn

Prof. Kohei Shiota
President
Shiga University of Medical Science

July 3, 2014

Dear Prof. Kohei Shiota,

On behalf of China Medical University, I would like to take this opportunity to extend our sincere congratulations to Shiga University of Medical Science on your 40th anniversary.

Under your leadership, Shiga University of Medical Science has made great achievements during the last forty years. As a friendly cooperative partner, we have every reason to believe that your university and staff are sure to make more progress.

The two institutions, Shiga University of Medical Science and China Medical University, have forged a close and solid partnership over these years. I wish and believe that ongoing success can be achieved and more productive collaboration can be developed. China Medical University will continue to explore cooperation possibilities and enhance the partnership with Shiga University of Medical Science.

To all the staff of Shiga University of Medical Science, we extend our warm wishes for continued success during the next 40 years and beyond.

Sincerely yours,

Zhao Qun, M.D., Ph.D.
President
China Medical University

中国医科大学（中国）

2014年７月３日

滋賀医科大学学長
塩田浩平殿

中国医科大学一同を代表して、滋賀医科大学の創立40周年を心よりお祝い申し上げます。

貴学はこの40年間に数々の偉大な業績を残されました。永年にわたる盟友として中国医科大学は、貴学が今後一層のご発展をされるものと確信しております。

貴学と私どもは、これまで緊密な協力関係を築き上げて参りました。この関係は今後さらに大きな成果として展開していくでありましょう。相互の可能性を探求するなかで、貴学との友好関係が一層深まるものと期待いたします。

今後の40年、50年に向けて、滋賀医科大学の全ての皆様がますますご活躍されますことを心より祈念いたします。

中国医科大学
学長　趙　群

哈爾濱医科大学

哈爾濱醫科大學
Harbin Medical University

President Kohei Shiota
Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinowa-cho, Otsu, Shiga, Japan

August 2, 2014

Dear President Kohei Shiota,

I have great pleasure to write you to extend my sincere congratulations on the 40th anniversary of the founding of Shiga University of Medical Science.

It reminds me of my visit to your university ten years ago at the 30th anniversary of SUMS. Unfortunately I could not make it this time, but my heart is with you and your colleagues to share your success and happiness on this significant occasion.

In the past decades, Harbin Medical University and Shiga University of Medical Sciences has kept a very close relationship through such activities as faculty and student exchanges and cooperation in teaching and research. I must, especially, thank you and your colleagues for your great efforts to support our students to study at your university, and they received excellent training offered by your faculty members.

In the past decade, I see a lot of achievements have been made in your medical education, research and healthcare services. You are trying hard to assume your social responsibility and provide the best education to medical students and best services to patients. Meanwhile, my university is also experiencing rapid development in the past ten years. Harbin

地址：中国黑龙江省哈尔滨市南岗区保健路157号　150081
Add: 157 Baojian Road, Nangang District, Harbin, China 150081　Website: http://www.hrbmu.edu.cn

哈爾濱醫科大學
Harbin Medical University

Medical University was the first medical school in China to be accredited with global standards in medical education. We are trying best to become a more internationalized medical school through cooperation with many medical schools in the world. I look forward to you and your colleagues' visit to my university and share our experience together.
I hope our two universities will further enhance cooperation and exchanges in more aspects including student and faculty training and scientific research, so as to make greater contributions to the medical education of China and Japan.

In the end, please accept my best regards to you, former President Tadao Bamba, and the entire faculty and students of SUMS. I wish a great success for your 40th anniversary. Your university has a vigorous development and makes more brilliant achievements.

Best wishes,

Baofeng Yang, Academician
Director of medical and Health Sciences
Academy of Engineering China
President, Harbin Medical University

地址：中国黑龙江省哈尔滨市南岗区保健路157号　150081
Add: 157 Baojian Road, Nangang District, Harbin, China 150081　Website: http://www.hrbmu.edu.cn

哈爾濱医科大学（中国）

2014年８月２日

滋賀医科大学　学長　塩田浩平 殿

滋賀医科大学が創立40周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

10年前の創立30周年の折に、貴学を訪問したことを懐かしく思い出します。残念なことにこのたびは皆様とお会いすることができませんでしたが、私の心は塩田浩平学長をはじめ教職員の皆様とともにあり、この記念すべき時において喜びを分かち合っております。

貴学と私どもは、これまで、教員及び学生の交流を推進し、教育研究の連携に努め、親密な協力関係を育んでまいりました。とりわけ、貴学が私どもの学生に優れた学習と研修の機会をお与えくださいましたことを、貴殿をはじめ教員の皆様に感謝いたします。

この10年間、貴学は、医学の教育研究と医療保険サービスにおいて多大なる成果をあげてこられました。社会的責任を担い、医学を志す学生に最良の教育を施し、数多くの患者に最高の医療サービスを提供してこられました。その間、本学もまた長足の進歩を遂げ、中国の医科大学としては初めて医学教育のグローバルスタンダードの認定を受け、各国の医科大学と協力関係を結んで更なる国際化に努めてまいりました。塩田学長をはじめとする貴学の皆様が私どもをご訪問くださり、お互いの経験について語り合える日がくることを楽しみにしております。

両校が、学術研究や教育研修はもちろんのこと、さらに数多くの面で協力関係と交流事業を拡充し、中国と日本の医療教育に大いに貢献することを期待しております。

結びに、この栄えある創立40周年を契機として、滋賀医科大学が今後さらなる飛躍を遂げられますとともに、塩田学長、馬場前学長、滋賀医科大学の教職員と学生の皆様がますますご活躍されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

楊　宝峰　中国工程院　医学衛生工学部　学部長
哈爾濱医科大学　学長

Cho Ray Hospital

Ministry of Health
CHO RAY HOSPITAL
201B Nguyen Chi Thanh, District 5, Hochiminh City - VIETNAM
Tel: 84-8-8554137 Fax: 84-8-8557267 E-mail: bvchoray@hcm.vnn.vn; vpgdbvcr@hcm.vnn.vn

9th July 2014

To: Prof. Kohei Shiota
President
Shiga University of Medicine Science
Seta, OTSU Tsukinowa-cho, Shiga, Japan 520-2192
Japan

Dear Prof. Kohei Shiota,

Warmest greetings from Cho Ray hospital,

On behalf of the Cho Ray hospital, I would like to extend my heartiest pleasure to congratulate Shiga University of Medicine Science's 40th anniversary this year.

Since SUMS inception - forty decades ago, the SUMS's unwavering mission has provided high-quality education at various levels and faculties to meet the needs of lifelong learners. By offering flexible learning models and through a system of oversea training, SUMS has made effective collaboration with CRH in medical training.

We have been developing bilateral collaboration not only sharing experiences but also academic training including SUMS-supported Ph.D, Master training courses. We highly appreciate this international collaboration between SUMS and CRH that had been contributing to our hospital significant education achievements.

I am very grateful to you for your support and help.

Again, please accept my congratulations SUMS's 40th anniversary this year and I sincerely wish and believe that SUMS will continue to prosper for many years to come.

Sincerely yours,

Assoc. Prof Nguyen Truong Son
Director of Cho Ray hospital

チョー・ライ病院（ベトナム）

2014年７月９日

滋賀医科大学学長　塩田学長殿

チョー・ライ病院よりご挨拶を申し上げます。

このたび滋賀医科大学が創立40周年を迎えられましたことを、チョー・ライ病院一同を代表して心よりお祝い申し上げます。

貴学は、40年の永きにわたり、揺るぎない使命をもって、生涯学習者のニーズに応える質の高い教育を提供してこられました。さらには、柔軟な学習モデルと海外研修システムを打ち立て、医療研修の分野で私どもと有意義な協力関係を築いてまいりました。

私たち両校は、親密な協力関係のもとに様々な経験を共有するだけでなく、貴学の助成による博士課程プログラムを初めとして様々な学術研修制度を行ってまいりました。両校の国際的な友好関係は、本医院の医療教育にとって大きな支えとなっております。

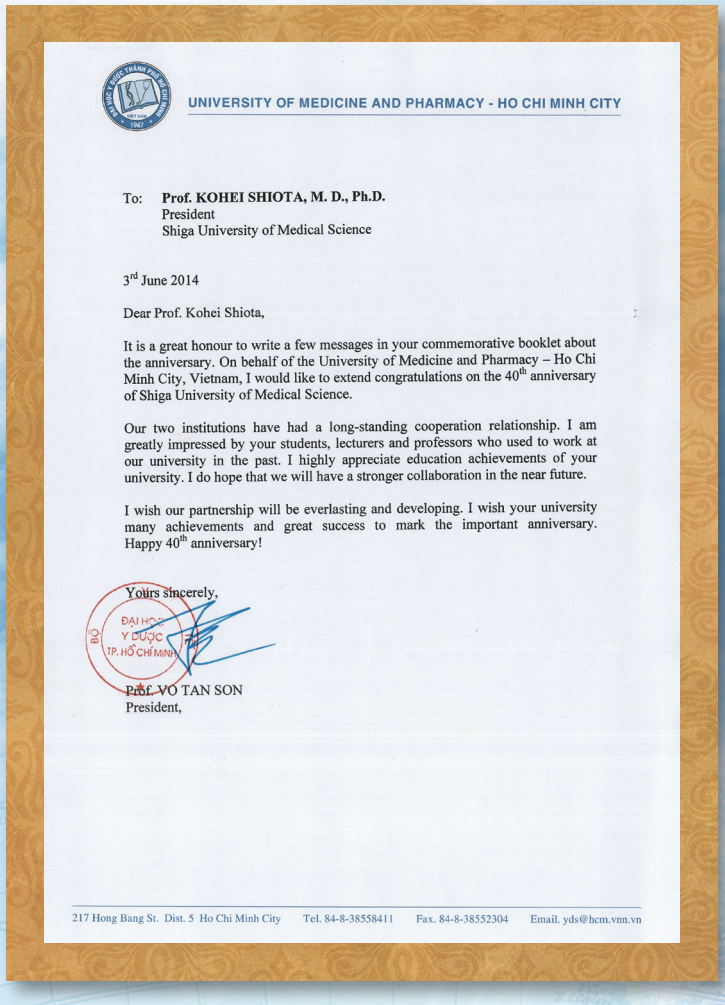
私どもは、貴学の支援に心より感謝いたします。

最後に、滋賀医科大学が創立40周年を迎えられましたことを改めてお祝い申し上げますとともに、貴学が今後ますますご発展なされますことを心よりお祈り申し上げます。

敬具

チョー・ライ病院長　Nguyen Truong Son

University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Minh City



UNIVERSITY OF MEDICINE AND PHARMACY - HO CHI MINH CITY

To: **Prof. KOHEI SHIOTA, M. D., Ph.D.**
President
Shiga University of Medical Science

3rd June 2014

Dear Prof. Kohei Shiota,

It is a great honour to write a few messages in your commemorative booklet about the anniversary. On behalf of the University of Medicine and Pharmacy – Ho Chi Minh City, Vietnam, I would like to extend congratulations on the 40th anniversary of Shiga University of Medical Science.

Our two institutions have had a long-standing cooperation relationship. I am greatly impressed by your students, lecturers and professors who used to work at our university in the past. I highly appreciate education achievements of your university. I do hope that we will have a stronger collaboration in the near future.

I wish our partnership will be everlasting and developing. I wish your university many achievements and great success to mark the important anniversary. Happy 40th anniversary!

Yours sincerely,

BỘ Y TẾ ĐẠI HỌC Y DƯỢC TP. HỒ CHÍ MINH

Prof. VO TAN SON
President,

217 Hong Bang St. Dist. 5 Ho Chi Minh City Tel. 84-8-38558411 Fax. 84-8-38552304 Email. yds@hcm.vnn.vn

ホーチミン医科薬科大学（ベトナム）

2014年６月３日

滋賀医科大学
学長　塩田浩平殿

ベトナム・ホーチミン医科薬科大学一同を代表して、滋賀医科大学の創立40周年を心よりお慶び申し上げます。この慶事にあたり、記念の小冊子に寄稿させていただきますことを光栄に思います。

貴学と私どもは、永年に渡って親密な協力関係を培ってまいりました。私どもは、本学を訪れた貴学の学生や教職員の皆様につねに深い感銘を受けてまいりました。貴学の教育水準の高さは誠に称賛に値いたします。両校の絆が今後ますます強まりますことを心から希望いたします。

両校の友好関係が末永く続き、ますます発展することと併せて、滋賀医科大学のさらなるご発展とご成功を祈念申し上げます。創立40周年、おめでとうございます。

Prof. VO TAN SON
学長

University of Ottawa

Université d'Ottawa | University of Ottawa

Dear President Shiota,

On behalf of the University of Ottawa, I would like to offer my most heartfelt congratulations to Shiga University of Medical Science on its 40th anniversary.

Over the past four decades, Shiga University has developed remarkable programming and training that is providing students and young researchers in the fields of medicine and nursing with the expert knowledge and skills necessary to make a difference on the international stage.

As one of Canada's most research-intensive post-secondary institutions, the University of Ottawa is committed to offering students an enriching educational experience rich in learning and research opportunities. As such, we are immensely proud of our partnership with Shiga University. Together, we are creating meaningful academic and scientific collaborations that are nurturing global-minded medical and health care professionals, facilitating discovery and advancing technologies.

This shared commitment to excellence in teaching, learning and research is at the heart of important exchanges of information, knowledge and expertise in areas such as brain and mind sciences, cardiovascular science, medical pedagogy and nursing practice. The University of Ottawa looks forward to continued partnership with the Shiga University of Medical Science as we work together to build clinical and research capacity and to develop highly qualified professionals.

Congratulations once again on this important milestone in the history of Shiga University of Medical Science. I wish you much success with this commemorative event.

Yours sincerely,

Allan Rock
President and Vice-Chancellor

uOttawa

オタワ大学（カナダ）

塩田学長殿

オタワ大学を代表して、滋賀医科大学の創立40周年に際し、心よりご祝辞を申し上げます。

滋賀医科大学は、過去40年に渡って教育と研修の面で優れた実績をあげられ、医学と看護学の分野で専門的な知識と技術を身につけた学生と若手研究者を輩出し、国際舞台でリーダーとなるべき人材を育んでこられました。

オタワ大学はカナダ有数の研究集約的な大学として、豊かな学習と研究の機会を学生に提供することを使命としております。そうであればこそ、私どもは貴学とのパートナーシップを大いに誇らしく感じております。これからも共に、学術と科学の両面で有意義な協力関係を築き、国際志向をもった医学のプロフェッショナルを育て、新たな知見と技術の進歩に貢献してまいりたいと存じます。

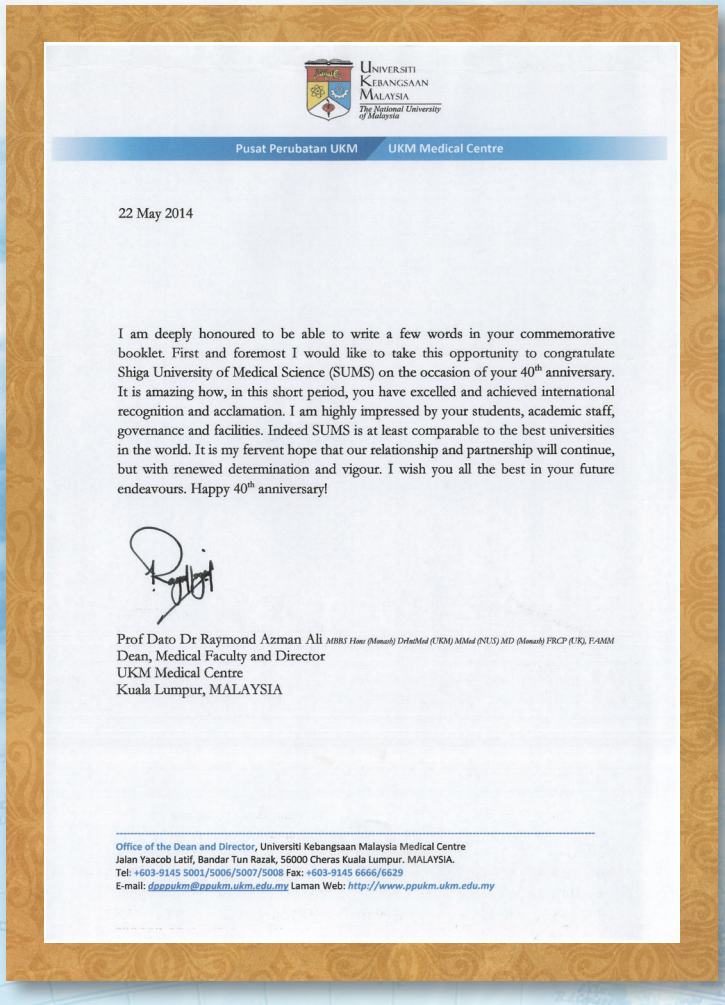
貴学と私どもは、教育・学習・研究のいずれにおいても、卓越した成果をあげるべく全力を尽くすという姿勢を共有しております。このような姿勢は、脳科学、精神科学、循環器科学、医学教育学、看護実習などの分野で、学術情報や専門技術の交換を行うためになくてはならない資質であると確信いたします。私どもは、滋賀医科大学とオタワ大学のパートナーシップが今後ますます発展し、ともに臨床や研究の能力を強化し、有能な専門家を育成することを心より期待しております。

結びに、この記念すべき節目のときを契機に、滋賀医科大学が今後ますますご発展なされますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

敬具

学長兼副総長　アラン・ロック

National University of Malaysia



UNIVERSITI KEBANGSAAN MALAYSIA
The National University of Malaysia

Pusat Perubatan UKM / UKM Medical Centre

22 May 2014

I am deeply honoured to be able to write a few words in your commemorative booklet. First and foremost I would like to take this opportunity to congratulate Shiga University of Medical Science (SUMS) on the occasion of your 40th anniversary. It is amazing how, in this short period, you have excelled and achieved international recognition and acclamation. I am highly impressed by your students, academic staff, governance and facilities. Indeed SUMS is at least comparable to the best universities in the world. It is my fervent hope that our relationship and partnership will continue, but with renewed determination and vigour. I wish you all the best in your future endeavours. Happy 40th anniversary!

Prof Dato Dr Raymond Azman Ali *MBBS Hons (Monash) DrMedSci (UKM) MMed (NUS) MD (Monash) FRCP (UK), FAMM*
Dean, Medical Faculty and Director
UKM Medical Centre
Kuala Lumpur, MALAYSIA

Office of the Dean and Director, Universiti Kebangsaan Malaysia Medical Centre
Jalan Yaacob Latif, Bandar Tun Razak, 56000 Cheras Kuala Lumpur. MALAYSIA.
Tel: +603-9145 5001/5006/5007/5008 Fax: +603-9145 6666/6629
E-mail: dpppukm@ppukm.ukm.edu.my Laman Web: http://www.ppukm.ukm.edu.my

マレーシア国民大学（マレーシア）

2014年５月22日

滋賀医科大学の創立40周年を心からお慶び申し上げますとともに、記念誌の発刊をお祝い申し上げます。

滋賀医科大学が、これほど短い期間に世界的な認知と称賛を得られましたことは、実に驚くべきことと申せましょう。私どもは常に、貴学の学生や教職員、運営や施設に深い感銘を受けてまいりました。控えめに申しましても、貴学は世界最高水準の大学に比肩するものと確信いたします。

私たちの友好関係と協力関係が、この40周年を期して新たな決意とともに、これからも末永く続くことを切に希望いたします。滋賀医科大学の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。創立40周年、誠におめでとうございます。

Prof. Dato Dr Raymond Azman Ali
マレーシア国民大学学長
UKMメディカルセンター長

University of Nairobi

UNIVERSITY OF NAIROBI
Office of the Vice-Chancellor

Prof.G.A.O. Magoha,EBS,MBBS,MKNAS, FICS, FCS (ECSA), FAAS, FWACS, FMCS (Uon)

Telegrams: Varsity
Fax: +254-20-2212604/2216030
E-mail: vc@uonbi.ac.ke
Website: www.uonbi.ac.ke

Telephone: + 254- 20-318262
P.O. Box 30197 -00100
Nairobi
Kenya

July 7, 2014

Kohei Shiota M.D., Ph.D.
President
Shiga University of Medical Science

RE: VICE-CHANCELLOR MESSAGE: SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE 40 YEAR ANNIVERSARY COMMEMORATION

The University of Nairobi wishes to congratulate the President, management, faculty and the entire Shiga University of Medical Science family on the auspicious occasion of your 40th year anniversary.

As you commemorate this great day of your history, we urge you to remain steadfast in your vision on taking Shiga University of Medical Science to the highest possible levels of academic and research excellence and to continue providing unparalleled service to humanity.

We are proud to be associated with you through the memorandum of understanding that was signed by our two universities on November 7, 2012 to facilitate collaboration on research and academic excellence and through which a number of students have already benefited.

The collaboration with the University of Nairobi entails exchange of faculty and research fellows, student and academic materials, publications and information. We also have an agreement to conduct joint research projects and organization of symposia. As leading universities in the medical field, our collaboration will strengthen our respective medical schools in pursuit of solutions to health problems.

ISO 9001 : 2008 Certified

I wish, Shiga University success as you commemorate your 40th year anniversary.

GEORGE A.O. MAGOHA EBS,MBS
VICE-CHANCELLOR
AND
PROFESSOR OF SURGERY

ナイロビ大学（ケニア）

2014年７月７日
滋賀医科大学　学長　塩田浩平殿

このたび、滋賀医科大学が創立40周年の節目を迎えられましたことを、衷心よりお祝い申し上げます。

とりわけ、塩田学長をはじめ滋賀医科大学関係者すべての皆様に、心からお慶びを申し上げます。

この記念すべき日を迎えられました貴学が、これまでと同様に、建学の理念に則って教育研究を極め、人類全体に比類なき貢献を果たしますことを大いに期待いたします。

2012年11月７日に覚書を締結して以来、両校は教育と研究において親密な協力関係を結び、すでに多くの学生がその恩恵に浴してまいりました。貴学と私どもの大学が協力関係にあることは、私どもの誇りであります。

この協力関係に基づき、教職員、研究者、学生の交流が行われ、教材、出版物、情報の交換が図られてまいりました。また、両校の間では、共同研究やシンポジウムの開催についても合意が交わされております。医学界をリードする両校の協力関係を通じて、さまざまな健康問題が解決されるであろうことを信じております。

滋賀医科大学の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

ジョージ・A. O. マゴハ　副総長・外科教授

Kenya Medical Research Institute

In Search of Better Health

Kenya Medical Research Institute

The Chairperson, Members of the Board of Management,
the Director and Staff of
Kenya Medical Research Institute

Heartily Congratulate

The President, Staff and Students of Shiga University of Medical Science (SUMS)
Seta Tsukinowa-CHO, OTSU, SHIGA 520-2192 **JAPAN**
on this auspicious occasion marking
THE 40TH ANNIVERSARY CELEBRATIONS OF SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE.

KEMRI deeply appreciates the excellent cordial partnership with SUMS in the areas of research, training, exchange visits and sharing of information that is mutually beneficial to the advancement of better health for mankind.

Long live **KEMRI/SUMS** Partnership and **Happy 40th Anniversary!**

Solomon Mpoke, PhD, MBS
DIRECTOR
KENYA MEDICAL RESEARCH INSTITUTE

P.O. BOX 54840-00200, Nairobi, **Tel: +254 (020) 2722541, 2713349 Fax: + 254 (020) 2720030**
Email: director@kemri.org Website: *www.kemri.org*

ケニア中央医学研究所（ケニア）

ケニア中央医学研究所の理事長、理事会メンバー、所長をはじめスタッフ一同は、滋賀医科大学の創立40周年記念という慶事に際し、滋賀医科大学の学長をはじめスタッフ、学生の皆様に心よりお祝い申し上げます。

人類の健康増進を推し進める両機関は、研究、研修、交換派遣、情報交換の分野で、双方に有益な協調関係を結んでいます。このような素晴らしい友好関係について、ケニア中央医学研究所は滋賀医科大学に対し深く感謝しております。

ケニア中央医学研究所と滋賀医科大学のパートナーシップ、万歳！
祝、創立40周年！

ケニア中央医学研究所
所長
ソロモン・ポケ博士

Mongolian National University of Medical Sciences

Congratulations message

Prof. Batbaatar Gunchin M.D., Ph.D.
President
Mongolian National University of Medical Sciences

My warmest greetings and best wishes to President Kohei Shiota and everyone at Shiga University of Medical Science!

On behalf of Mongolian National University of Medical Sciences' all lecturers, students and staffs I would like to extend our heartfelt congratulations to Shiga University of Medical Science on their 40th Anniversary! It has been your hard work that has led you to this achievement and recognition today.

I remember the day we, Shiga University of Medical Science and MNUMS signed an Agreement to promote research, and academic collaboration between our universities on July, 2013. We are certain that this cooperation will strengthen our academic ties, and not only that we hope it will serve a great opportunity to study an experience from you, and also from others in Asia. In this moment, I would like to express my sincere gratitude to Shiga University of Medical Science, as well.

I am confident that the Shiga University of Medical Science will continue to prosper as it moves forward towards enhancing education, promoting medical research, developing internationalism and contributing to society successfully in the future. My thoughts are with you for your memorable 40th Anniversary Celebration and I wish you the very best in the years to come.

モンゴル国立医科大学（モンゴル）

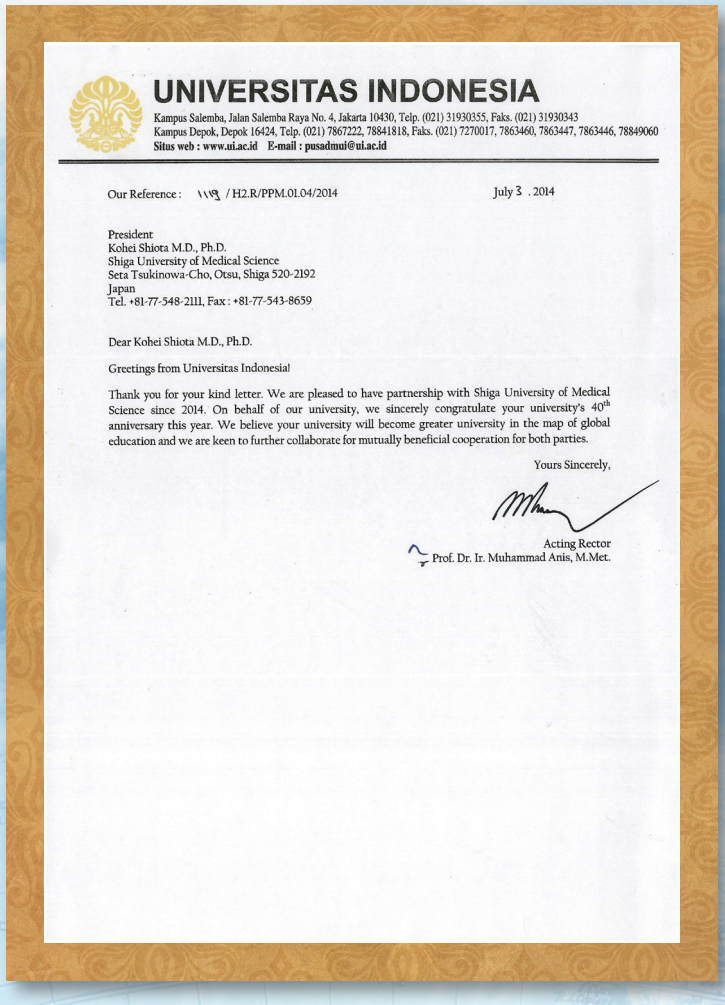
このたび滋賀医科大学が創立40周年を迎えられましたことを、モンゴル国立医科大学一同を代表して心からお祝い申し上げます。とりわけ、塩田浩平学長をはじめ滋賀医科大学すべての皆様に、心よりお慶びを申し上げますとともに、40年の誇るべき実績と評価を築いてこられたことに、深い敬意を表する次第であります。

去る2013年７月、滋賀医科大学とモンゴル国立医科大学の両校が、学術交流の促進を期して覚書に調印した日のことが、今もありありと思い出されます。爾来、両校は親密な協力関係を育み、学術的な結びつきを強めてまいりました。アジアの同胞たる貴学から今後ますます多くのことが学べるものと期待し、また、この節目となる機会に心より感謝の意を表します。

私は、滋賀医科大学がこれからも教育に励み、医学研究の発展に努め、国際化を推進し、社会の繁栄に貢献されるものと確信しております。この記念すべき40周年を契機に、滋賀医科大学が今後ますますご発展なされますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

モンゴル国立医科大学
学長　Batbaatar Gunchin

University of Indonesia



UNIVERSITAS INDONESIA

Kampus Salemba, Jalan Salemba Raya No. 4, Jakarta 10430, Telp. (021) 31930355, Faks. (021) 31930343
Kampus Depok, Depok 16424, Telp. (021) 7867222, 78841818, Faks. (021) 7270017, 7863460, 7863447, 7863446, 78849060
Situs web : www.ui.ac.id E-mail : pusadmui@ui.ac.id

Our Reference : \\\9 / H2.R/PPM.01.04/2014 July 3 . 2014

President
Kohei Shiota M.D., Ph.D.
Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinowa-Cho, Otsu, Shiga 520-2192
Japan
Tel. +81-77-548-2111, Fax : +81-77-543-8659

Dear Kohei Shiota M.D., Ph.D.

Greetings from Universitas Indonesia!

Thank you for your kind letter. We are pleased to have partnership with Shiga University of Medical Science since 2014. On behalf of our university, we sincerely congratulate your university's 40th anniversary this year. We believe your university will become greater university in the map of global education and we are keen to further collaborate for mutually beneficial cooperation for both parties.

Yours Sincerely,

Acting Rector
Prof. Dr. Ir. Muhammad Anis, M.Met.

インドネシア大学（インドネシア）

2014年７月３日

塩田学長殿

インドネシア大学からご挨拶申し上げます。

ご丁寧なお手紙ありがとうございました。滋賀医科大学との協調関係が2014年より始まりましたことを本学はうれしく思っております。本年貴学が創立40周年を迎えられましたこと、本学を代表して心よりお祝い申し上げます。私どもは、貴学が国際教育界で一層素晴らしい大学に発展されると信じております。また、相互にとって有益な相互協力を両機関がさらに進めて行くことを切望しております。

敬具

学長代行
ムハマド・アニス・Ｍ・メット